

論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 3029 号	氏名	鈴木 学
論文審査担当者	主査 板橋 家頭夫 副査 瀧本 雅文 副査 中牧 剛		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>新生児において、ドナーミルクの使用は人工乳に比較して壊死性腸炎の罹患率を低下させると報告されている。これは母乳に含まれる免疫物質がドナーミルク精製に必要な熱処理後も存在していることが理由のひとつと考えられている。新鮮母乳における総細胞数や細胞表面マーカーの解析の検討は数多く行われているが、熱処理後の母乳中に含まれる白血球数・生細胞率の報告や、残存細胞の細胞分画を解析した報告はない。</p> <p>本論文はドナーミルクを遠心分離して得られた細胞をフローサイトメトリーで解析している。結果として $4.7 \pm 0.32 \times 10^4 / \text{ml}$ と新鮮母乳の約 2 割の生細胞が残存すること、細胞分画としては T 細胞、B 細胞、NK 細胞は全て 0.5% 未満で、マクロファージは $83.7 \pm 7.4\%$、樹状細胞は $62.8 \pm 26.1\%$ であることを報告しており、これは新たな知見である。母乳中の樹状細胞は児の腸管粘膜で児の T 細胞、B 細胞を腑活化するとされており、樹状細胞の残存がドナーミルクによる壊死性腸炎の発症率低下の一因になっている可能性が示唆された。</p> <p>以上より本論文は新しい知見を得ており、学術上価値があるものとする。</p> <p>論文題名：フローサイトメトリーによるパスツール化したドナーミルク中の残存細胞の解析</p> <p>掲載雑誌名：日本周産期・新生児医学会雑誌 第 54 巻 第 1 号 2018 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)